

平成10年度病害虫発生予察特殊報第4号

平成11年2月15日
高知県病害虫防除所

病害虫名

シストセンチュウの1種

Globodera tabacum (3亜種を含む)
英名: tobacco cyst nematode 和名: なし



<成熟した褐色のシスト>



<根に寄生した若い雌成虫>

1. 発生作物 ナス(品種: 竜馬、台木: 赤ナス)

2. 発生場所 香美郡夜須町 1戸(23a)

3. 初発生の確認された時期 平成10年5月

4. 発生確認の経緯と発生状況

1. 当該ナス農家では、ナスの生育が平成9年11月頃からやや悪いと感じていたが、平成10年3月頃から萎凋がひどくなった。5月になって根部にシストを発見したため、農業技術センターへ連絡した。なお、当該農家では過去20年間のナス連作期間において、土壌病害の発生が見られなかったため、土壌消毒は殆ど行っていなかった。
2. 平成10年5月15日の現地調査において採取したサンプルを、農林水産省農業研究センター、農林水産省北海道農業試験場及び農林水産省横浜植物防疫所に送付した。その結果、平成10年5月28日に *Globodera tabacum* の可能性が高いが、ナス科植物への接種試験(約2カ月)後に同定結果を伝える旨

の連絡があった。

3. 平成10年9月4日、当該センチュウは我が国では未発生の *Globodera tabacum* であると同定結果を受けた。
4. 本線虫の県内での発生状況を確認するために、平成10年11月に普及センターの協力を得、県内24市町村、44ほ場におけるナス科作物(ピーマン、シシトウガラシ、ナス、トマト)での調査を行ったところ、当該ほ場以外での発生は確認されなかった。
5. なお、当該ほ場では、外部への伝搬防止のため、汚染土壌がほ場外に出ないようにすると共に、D-D剤やバイデート粒剤による土壌消毒を行った。

5. *Globodera tabacum* の生態について

Globodera tabacum は、アメリカ、コロンビア、イタリアなどに分布し、タバコ、ナス、トマトなどのナス科植物に寄生する。

本種は、寄主植物の根に、0.4~0.8mm程の褐色のシスト(包のう)を作る線虫である。根に寄生した若い雌成虫は白色で、成熟すれば体内に数百個の卵を内蔵する。その後、雌成虫は死亡して外皮が厚く硬化して褐色のシストを作る。シスト内には卵及び卵内幼虫がおり、寄主植物が栽培されるとシスト内の幼虫は根からの孵化促進物質により孵化し、第2期幼虫が土壌中に遊出して根に侵入する。

被害は、線虫密度が高い場合、組織の壊死や根系の生育が不良となり、下葉からの枯れあがりや、著しい場合には枯死する株が見られる。